

ラーニング・マウンテン
— 学びのプランを立てよう —

3下『モチモチの木』

たん
単元名

物語のおもしろさを感想文に書いて豆太に伝えよう

全（10）時間

教育出版

登場人物のせいかくや気持ちの変化に気をつけて読み、
物語のおもしろさを感想文に書こう。

みんなでかいけつしたい問い

わかること・できること

⑦ 様子や行動、気持ちやせいかくを表す言葉を知る。…(1)オ

考えること・表すこと

① 場面のうつりかわりとむすびつけて、登場人物の気持ちをそうぞうする。…(C)(1)エ
② 自分が考える物語のおもしろさをはっきりさせて感想を書く。…(C)(1)オ

くふうして学ぼうとすること

④ 『モチモチの木』をくり返し読み、物語のおもしろさがわかる感想になるように何度も書き直しながら、豆太についての自分の考えをまとめようとする。

【この単元を通したふり返し】

・登場人物の気持ちの変化やせいかくをそうぞうするとき、どのようなことに気をつけましたか。
・感想文を書くとき、どのようなことに気をつけましたか。

【第3ステージ（2）時間】

たしかめ ①

こんな学習をしてこんな力を！

⑨ はじめの感想と読み深めた後の感想をくらべて、自分の考えの変化について書く。
⑩ 書いた文章を読み合い、学習をふり返る。

【第2ステージ（6）時間】

たしかめ ②③④⑤

こんな学習をしてこんな力を！

③④⑤ 会話や行動、様子などに気をつけて読み、五つの場面に豆太のせいかくを表す見出しをつける。
⑥ どうして豆太はモチモチの木に灯がついているのを見ることができたのか考える。
⑦ 豆太はかわったのかを考え、物語のおもしろさについて友だちと話し合う。
⑧ 物語のおもしろさをはっきりさせて、豆太にあてた感想文を書く。

【これまでの学びでこの単元に生かせること】

スタート

物語の感想をつたえ合う活動を通して、場面の様子や人物の気持ちをそうぞうして読む。

小学校3年『モチモチの木』授業のポイント

単元名 物語のおもしろさを感想文に書いて豆太に伝えよう

本教材は、登場人物である豆太の言動がわかりやすく描かれた物語です。豆太は、ふだんはおくびょうですが、真夜中に病気のじさまを助けるためにふともの村まで医者様を呼びに走ります。怖さに耐え、じさまのことだけを思って走る豆太は、ついにモチモチの木に灯がとものを見ることができま

1 単元で身につけたい資質・能力

本単元では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像しながら読む力をつけます。

児童は、『モチモチの木』を読み、登場人物の性格や気持ちの変化について考え、物語のおもしろさについて理由を明確にした感想を書いていきます。感想を書くには、中心人物である豆太の性格や気持ちを捉え、豆太がどのように変わったのか、情景はどのように描かれているのかを読んでいく必要があります。また、登場人物について自分は思うか、自分の経験と重なるところはあるかなど、自分と比べながら読んでいくことができるようにします。

2 評価規準

評価の観点	評価規準
知識・技能	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。…(1)オ
思考・判断・表現	◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。…C(1)エ ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。…C(1)オ
主体的に学習に取り組む態度	・粘り強く登場人物の性格について場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像し、自らの学習を調整しながら、物語のおもしろさについて書こうとしている。

本単元における子どもたちのゴールイメージ

本単元では、『モチモチの木』を読み、登場人物の性格や気持ちの変化について考え、物語のおもしろさについて理由を明確にした感想を書いていきます。

第2ステージ③④⑤の段階において、各場面に豆太の性格を表す見出し（場面1「おくびょう豆太」など）をつけ、第2ステージ⑥⑦の段階で、豆太がモチモチの木に灯がついているのを見ることができた理由と物語のおもしろさについて考えます。そして、第2ステージ⑧において、物語のおもしろさをはっきりさせて感想を書きます。

第3ステージでは、初めの感想と読み深めた後の感想を比べて、自分の考えの変化について書きます。言語活動として設定した感想文を通して、目標の実現状況を評価します。

物語のおもしろさをはっきりさせた400字程度の豆太に宛てた感想文の例

大すきなじさまのために

わたしは、大すきなじさまのために、真夜中に医者様をよびに行ける豆太は、勇気があつてかっこいいと思う。

夜中はせつちんにも行けない豆太だから夜道はとてもこわかっただろう。ねまきてはだしのまま、寒かっただろうし、足がとてもいたかったことだろう。じさまのことも心配だっただろう。なきなき走るのもよくわかる。そうして豆太は、じさまも死んだおとも見えた、モチモチの木にともる灯を見ることができた。じさまが大すきで大切にしたい気持ちで、こわいという気持ちに勝つたから、モチモチの木に灯がとものを見ることができたんだね。じさまが言った、「人間、やさしさあれば、やらなきやならねえ」とは、きつとやるもんだ。のように、勇気とじさまへのあいじょうがたくさんある家族思いの豆太だと思う。でも、さい後に元の弱虫にもどっているところが豆太らしくていいね。

解説 これまでに学習した「豆太の性格」、「豆太になりきって考えた、医者様を呼びに夜道を走る豆太の気持ち」、「どうしてモチモチの木に灯がとものを見ることができたのかに対する自分の考え」、「自分が考える物語のおもしろさ」などをまとめています。これまでのワークシートやノートを見直し、学習を生かして記述できるようにします。

ワンポイント
さらに、自分の読みの深まりを400字程度でまとめる文章にも挑戦！！

解説 第一、二段落に最初の感想と読後の感想を比べて思ったこと、第三段落には読み方、第四段落には物語のおもしろさに関する自分の考え、第五段落にまとめという構成で書いています。これまでの学習で学んだ読み方や読者としての豆太への見方の変化などを振り返りながら書いています。学びの集大成として、単元全体を振り返りながら自分の読みの深まりを意識できています。

はじめの感想と『モチモチの木』を読み深めた後に書いた感想をくらべると、自分の感想が大きく変わったと思った。

わたしは、豆太の夜中にせつちんに行けない様子や、せつかくがらばつて夜道を走って勇気を出したのに、さい後に弱虫にもどることが物語のおもしろさだと思っていた。

豆太のせいかくを会話や行動に注意して読んだり、豆太になって気持ちを考えたりしているうちにおもしろさがかわってきた。

わたしは、豆太が、おくびょうな自分をかえたというよりは、じさまが大すきだったから、勇気を出せたと思った。豆太が、じさまのためにこわい気持ちを乗り越え走り、モチモチの木の花を見たときにわたしは感動した。『モチモチの木』のおもしろさは、じさまへのあいじょう」だと考えることができた。

さいしょとくらべて、より物語がおもしろく感じられるようになったのは、豆太についてよく読めたからだと思う。

ラーニング・マウンテンについてはこちらから

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっとり、配布を許可されているものです。

ラーニング・マウンテン
— 学びのプランを立てよう —

たん
単元名〔

〕全()時間

3下『モチモチの木』

みんなでかいけつしたい問い

わかること・できること

考えること・表すこと

くふうして学ぼうとすること

【第3ステージ()時間】

〈こんな学習をしてこんな力を！〉



【この単元を通したふり返り】

【第2ステージ()時間】

〈こんな学習をしてこんな力を！〉

【第1ステージ()時間】

〈こんな学習をしてこんな力を！〉

スタート



【これまでの学びでこの単元に生かせること】